



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません」

聖書(ローマ書15章1節)

牧師 河合裕志

「強い者」とはどういう人を言うのだろうか。腕力がある、体力がある、運動能力が高い。あるいは語学に強い、パソコンに強い。あるいは権力を持っている、経済力を持っている。あるいは意志強固とか、いろんな場合が考えられる。どれもこれも望ましいもの、私達もそんな強さが持てたら、とも思われる。

ところで今パウロが考えているのはどんな強さなんだろう。それはどうもこれまでの流れからすると、「信仰の強い者」のこのよう。それは「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による」(ローマ3章28節)と受けとめている人のこと。その先頭にパウロが立っていた。この立場に立つ者はかなり信仰が強いと言わねば。長い長いユダヤ教の伝統は「人が義とされるのは律法の行いによる」と信じて疑わなかったのだから。それをパウロは真っ向から否定したのだから。そして「信仰による」としたのだから。

それってどういうこと、何やら難しそう。それが難しくない。至って単純明快。要するにキリスト信仰に立てばよい、ということ。パウロは当初、熱心なユダヤ教徒として律法の実行に励んだ。律法とは旧約聖書

に載っている掟の数々。この全部を満たすことによって神より「義とされる」、神によって義と認められ、罪を赦され、神との祝福された交わりに入れられる、と信じて疑わなかった。

しかし結果は失敗。律法全部の実行は不可能で自らの無力、罪の深さを、いやというほど味わった。そのどん底で示されたのがキリストの十字架だった。私の罪の身代りとしての十字架だった。この貴い神の子の犠牲死はわがためなり、と信じれば、義とされるんだ、との全く新しい地平に導かれることに。

そこに立つ者が「信仰の強い者」ということ。しかし中にいまだ信仰の弱い者がいて、たとえば食物規程の律法にとらわれている者は食べてよい物、いけない物にこだわっていた。しかしパウロはそうした「強くない者の弱さを担うべき」と勧めた。バカにせず、理解し、手助けしたらいいよ、と。

この世の中には、最初に述べたように様々の方面で強い人がいる。その人々がそうでない弱い人々のその弱さを担うことができれば幸い。自分だけで満足しているのではなく、共に分かち合い、支え合うことができればよいのだけれど。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時